大正元年十月一日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）大正二年六月一日發行 第一巻 第九號

近代思想

六月號

■自由の前觸れ（感想）……フロウベル（一）
■征服の事實（評論）……大杉榮（二）
■チヨツト面白い（批評）……榮（五）
■個人と社會（評論）……小原愼三（六）
■自然淘汰説（評論）……高畠素之（八）
■親と子（短歌）……安成二郎（九）
■ガンガ・ディン（詩）……仲木貞一（一〇）
■道ばたで（對話）……ミルボウ（一三）
■逍遙先生の反譯振、批評）……漣六（一四）
■「女學生」（批評）……榮（一六）
■眼の挑戰（小説）……和氣律次郎（一八）
■奴等の力（感想）……大杉榮（二二）
■人と超人（脚本）……堺利彦（二三）
■小説三篇（批評）……榮（二八）
■新刊批評）……律飄（三〇）
■大久保より（雜録）……榮（三一）

近代思想社

東京府下大久保百人町三五一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新佛教徒同志會編

來世之有無

▲名家筆跡三十葉挿入

三六版上製
定價七十錢
郵稅八錢

吾等の死後はどうなるか地獄があるか極樂があるか抑々又吾等の靈魂は滅するのか滅しないのか元來吾等に靈魂などゝいふものが有るのか無いのか凡そ此くの如きの難問題に關し現代各方面の名士二百數十人の解答を得てこれを滿載したのが本書である古來の大疑團も本書一たび出づるに及んで忽ち雲散霧消するであらう

文學士 平田元吉先生譯

死後の生活

定價五十錢
郵稅八錢

文學博士 松本文三郎先生著

彌勒淨土論

定價一圓
郵稅八錢

東京小石川區原町六
振替東京一五八六八
丙午

川原町六
三五三
鷄聲堂

Asia Library
AP
95
J2
K47
no.9

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

213-442254

第一巻　第九號

自由の前觸れ

魂は今眠つてゐる。他人の言葉に醉つてゐる。

けれども、やがて狂亂的覺醒の時が來て、解放の喜悅に耽るやうになる。その周圍には、もう何んの礙げもなくなる。政府もなくなる。宗教もなくなる。何んの法式もなくなる。

立法を組織して修道院のやうな社會を建てやうと夢みてゐる、有らゆる流派の共和主義者等は、私には、世の中の最も野蠻な先生のやうに思へる。

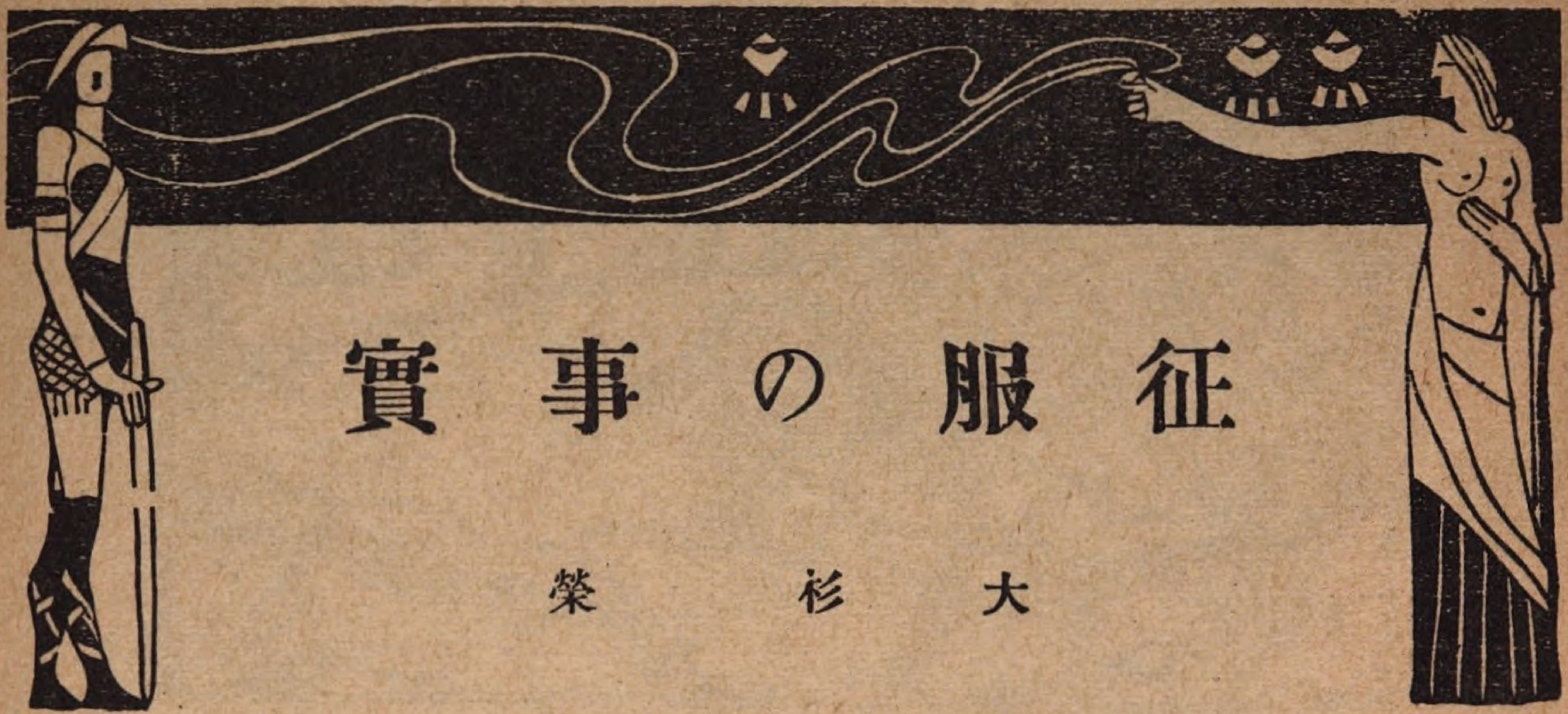
私は、これと反對に、一切の規則はなくなり、障壁は覆へされ、土地は平にされてしまう、と信ずる。そしてこの混亂が、恐らくは自由を前觸れるのである。

いつでも先驅けをする藝術は、この步みを、少くとも、あと追ふて來た。

今立つてゐるものに、何んの詩があるか。

——（フロウベル）

（榮　譯）



征服の事實

大杉榮

一

樗牛全集の中に、ブランデスの何にかの本から拔いた、次の文がある。

『少なくとも歐羅巴の四大國民の名は、何れも皆な外國の名である。佛蘭西の名稱は、ライン河の西岸に棲んでゐたフランク人から來たもので、此の國民の祖先たる古のケルト人とは、何んの因緣もないのである。英吉利の名は、もと獨乙の一地方から來たもので、アングロサクソン民族とは、何の血族上の聯絡もないのである。露西亞の名は、もと北方の起源で、スカンヂネビアの一民族たるロゼルの轉訛したものである。普魯西はプロイセンと云ふスラブの一蠻族の名で、十二世紀の終り頃に、獨乙に入つたのである。』

此の事實は、僕が今此處に述べやうとする事と、或は關係のあるのもあり、或は左程に關係のないのもあるかも知れぬ。けれども、これを讀んだ時の僕自身に取つては、これがある深い社會事實を思はせる、力強い暗示であつたのである。

征服だ！。僕は斯う叫んだ。社會は、少なくとも今日の人の云ふ社會は、征服に始まつたのである。

カール・マークスとフリードリヒ・エンゲルスとは、其の共著『共產黨宣言』の始めに云つてゐる。『由來一切社會の歷史は階級鬪爭の歷史である』と。けれども此の階級鬪爭の以前に、又それと同時に、種族の鬪爭があつた。そして其處に、此の征服と云ふ事實が現はれた。

二

人類がまだ動物の域にゐた頃、其の住家は、恐らくは熱帶地の何處かであつたらうと思はれる。そして多くの事實は、人類の始現を見た地方として、南方亞細亞を指してゐる。

此處に初期の人類は、自然の富饒の間に暖い空氣の下に、動物のやうな生活を送りながらも、猶多少環境を變更し、又は他の肉食獸を避け若しくは欺くに足る智識もあり、非常な速度でもつて繁殖する事が出來た。そして血族關係から生じた各集團の人口が多くなつて、互に接觸し衝突するやうになれば、其の集團は思ふまゝに四方八方に移住したのである。斯くして長い間、原始人類の間に、安樂と平和とが續いた。此

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

の時代が、昔しからよく云ふ、所謂黃金時代であつたのである。

其の或る集團は、愈々遠く、或は島嶼にまで移り住んで、他の集團と接觸する事もなく、從つて何んの煩はされる事もなく、其の單純な半獸的存在を續けた。今日猶世界の各地に殘つてゐる原始人種は即ち是れである。けれども左程に遠くまで中心地を離れなかつた集團同士の間に、やがて其の人口の迅速な增加と共に、互の接觸と衝突とが生じて來た。そして其處に、從來の平安な、半獸的自由の生活が失はれて、所謂文明が生れかけて來た。歷史が始まりかけて來た。

其の間に此等の各集團は、其の共通起源の傳習も痕跡も失つて、各々違つた言語や風習や宗敎を持つやうになり、全く異なつた種族を形づくつて了つた。そして各種族は、互に接觸する每に、衝突となり戰爭となつて、酷虐な敵同士となつた。

此の形勢は、發明、しかも主として攻擊と防禦との方法を生産する事に向つた發明の、有力な刺戟になつた。戰爭の勝敗は今も昔も、個人の勇敢と云ふ事よりも、寧しろ、武器の機械的優劣によるものである。且つ尙武心は發達した。野心深い酋長等は、互に攻略を競ひ始めた。

グンプロヰツとラフエンホフアとは、此の種族間の鬪爭によつて社會が創生せられた事を、巧みに論證してゐる。種族鬪爭の第一步は、一種族による他の種族の征服である。他の種族よりも優れた武器と戰略的才能とを持つてゐる一種族が、勝利を占めて征服者となる。そして他の種族は被征服者の地位に落ちる。

此の征服によつて、全く異つた二種族が、密接な接觸をする事となる。しかし彼等は到底同化する事が出來ない。云はゞ其の社會は兩極に分れるのである。征服者は常に被征服者を蔑視する。有らゆる方法を以て奴隷化する。被征服者は又、仕方なしに服從しながらも、征服者の暴力以外の一切のものを認めない。斯くして互に敵視し反感する二種族が、社會の兩極を形づくる事となる。

けれども此の二種族の不平等は、地位の不平等と云ふ事以上に、猶或者があつたのである。もと／＼此の二種族は先きにも云つた如く、全く異なれる種族である。彼等は異なれる言語を使つてゐる。異なれる神を崇拜してゐる。異なれる儀式と禮拜とを行つてゐる。異なれる風俗と習慣と制度とを持つてゐる。そして被征服種族は、其等のもの丶一つでも失ふよりは、寧ろ退治し盡される事を望んでゐる。征服種族は其の臣下の有する有らゆるものに對して、絕對的輕侮を恣にしてゐる。しかしそれを自らのものに同化する事は出來ない。

此處に於て、此の兩極の調和、と云ふよりは寧ろ、征服者が本當に被征服者を征服し了せんが爲めに、社會の諸種の制度が生れた。

三

被征服者の一切の行爲に對して、絕えず兵力を用ひる困難と費用と及び部分的失敗とは、遂に征服者の一大負擔となつた。一時は勝利の誇に驕られて、其の權威に對する有らゆる叛反者を、見つかり次第に嚴罰に處してもゐたが、やがて斯んな風に一人々々別々に支配して行くのが面倒臭くなつて、何んとか纏つた統治の方法が要求せられて來た。

即ち最も屢々犯される行爲の種類を壓伏する爲めに、或る一般的規則を設ける事が

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

發明せられた。そして此の方法の甚だ經濟的な事が分つてからは、猶其の他の廣い範圍の諸種の行爲にも、同樣に夫れ夫れの一般的規則を設ける事となつた。斯くして遂に、今日謂ふ所の法治的支配の基礎が置かれたのである。そして此の法律を犯さない間は、多少の自由が、被征服者に與へられる。換言すれば、此の法律に服する事が被治者の義務であり、此の法律の違犯にならない行爲が其の權利であると認められるやうになつた。

　これと同時に又、征服階級の所謂教育と云ふ事が行はれた。兩階級の地位の不平等を維持して行く爲めには、もと／＼被征服階級の方が有らゆる點に於て劣等種族であると云ふ觀念を、是非とも被征服階級自身の心中にしかと植ゑ付けて置かねばならぬ。若し被征服階級が些かでも之れに疑惑をさしはさむやうになれば、それは社會の安寧と秩序との大なる紊亂を生ずるもととなる。そこで此の觀念を強制する爲めに、諸種の政策が行はれた。所謂國民教育の起源にして且つ基礎たる組織的瞞着の諸種の手段が行はれた。

　けれども只これだけでは治まつて行くものでない。一体或る一種族が征服せられたと云ふのは、ほんの偶然の出來事からか、若しくば戰爭術が下手だつたからである。其の他の點に於ては、或は被征服者の方が却つて優れてゐたかも知れぬ。そこで征服者は、利害の全く異なつた被征服者を統治する困難から遁れる爲めに、被征服者の中の或者の助を乞はればならなくなる。被征服者の中にも亦、多少の特權を得て、容易に之れに應ずるものが出て來る。即ち被征服者の中の智識者が、征服者の階級に仲間入をして、其の征服事業に協力する事となる。そして權利と義務とが、兩階級の間に、もつと適切に云へば、征服階級と被征服階級の一部分との間に、多少相互的になる。

　此の相互的と云ふ事は、いまだ不平等を背じない被征服階級に對する、絶好の瞞着手段であつたのである。即ち智識者は云ふ。

　『見よ、今や我が部落は征服階級のみの部落ではない。彼等は既に先きの非を悟つて被征服階級たる吾等に參政權を與へた。萬人は法律の前に平等である。』

　猶種々なる事情は、一方に征服者をして諸種の讓歩を爲さしめると共に、又一方に被征服者をして空虛な誇と及びあきらめとに陷らしめる。そして兩階級の間に、漸々に皮相的妥協を進めて行く。

　僕は今、此の征服の事實に就いて、詳細を語る暇はない。けれども以上に述べた事實は、いやしくも正直なる社會學者たらんものの、恐らくは何人も非認する事の出來ない事實である。

四

　歴史は複雜だ。けれども其の複雜を一貫する單純はある。たとへば征服の形式はいろいろある。しかし古今を通じて、一切の社會には、必ず其の兩極に、征服者の階級と被征服者の階級とが控へてゐる。

　再び『共產黨宣言』を借りれば、『希臘の自由民と奴隸、羅馬の貴族、平民、中世の領主と農奴、同業組合員と被雇職人』は即ち是れである。そして近世に至つて、社會は、資本家てふ征服階級と、勞働者てふ被征服階級との兩極に分れた。

　社會は進步した。從つて征服の方法も發達した。暴力と瞞着との方法は、益々巧妙に組織立てられた。

　政治！法律！宗教！教育！道德！軍隊！警察！裁判！議會！科學！哲學！文藝！其

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

他一切の社會的諸制度！

そして兩極たる征服階級と被征服階級との中間に在る諸階級の人々は、原始時代の彼の智識者と同じく、或は意識的に或は無意識的に、此等の組織的暴力と瞞着との協力者となり補助者となつてゐる。

此の征服の事實は、過去と現在と及び近き將來との數萬或は數千年間の、人類社會の根本事實である。此の征服の事が明瞭に意識されない間は、社會の出來事の何物も、正當に理解する事は許されない。

敏感と聰明とを誇ると共に、個人の權威の至上を叫ぶ文藝の徒よ。諸君の敏感と聰明とが、此の征服の事實と、及びそれに對する反抗とに觸れざる限り、諸君の作物は遊びである、戯れである。吾々の日常生活にまで壓迫して來る、此の事實の重さを忘れしめんとする、あきらめである。組織的瞞着の有力なる一分子である。

吾々をして徒らに恍惚たらしめる、靜的美は、もはや吾々とは沒交渉である。吾々は、エクスタシーと同時にアンツウジアスムを生ぜしめる、動的美に憧れたい。吾々の要求する文藝は、彼の事實に對する憎惡美と反逆美との創造的文藝である。

チョット面白い

榮

五月號の『太陽』に、文學博士谷本富氏の『學風變遷の意義』と題する、チョット面白い文章がある。要するに、社會組織の變遷と共に、學問が『レージュア・クラス即ち有閑階級』の手から『庶民一般』の手に移つた、その結果を說いたものだ。

今僕は、その文章の中の僕の所謂チョット面白い所を、少し拔書して見やう。

『即ち自分は、近世民主政治否な立憲政治の極意は、それが眞に歸納的たる一點に在ると思ふ。實際如何にして此の點に歸納的たる政治を行ふべきかに就いては、西洋の一部分に既に成案もあるやうで、頻りにこれを唱道し、之れを實行する事に力を盡して居るやうに聞き及ぶが、其の當否は今は姑く判斷する事を避けやうと思ふ。』

『近世民主政治否な立憲政治』が先づチョット面白い。しかし其の『極意たる眞に歸納的の政治』と云ふのは、及び『西洋の一部分には既に成案もある』と云ふのは、一體どんな政治の事なのだらう。『やうに聞き及ぶ』とか、『今は姑く判斷する事を避ける』とか云ふ所に、何んだか臭い氣がして、チョット面白い。

『從來觀て以て良制度となしたる議院政治でさへも、實は眞に國利民福を施すに拒む所がある。更に一番邁進して、國民一般の公論を以て、萬事を行ふ方法を講ぜねばならぬと云ふ者さへある。彼のサンヂカリズムなどは之に外ならぬと謂はれてゐる。然し自分等は、固より悉く之に左袒せんと欲するものでは決してない。否實際に於ては、寧ろ社會政策を以て姑く當を得たものとすべきかと考へてゐる。』

悉く左袒しない所が、チョット面白い。或は七分とか八分とか云ふのなら、左袒するのかも知れぬテ。『寧ろ社會政策を以て姑く當を得たものとする』のも、チョット面白い。一體此の『姑く』と云ふのは、何ヶ年位の事でせうな。

そして最後に云ふ。

『斯うなる事が社會組織の變遷に伴ふ學風の變遷であらうと思ふ……尤も是は唯事實の叙述で、私見の主張でないといふ事は承知して貰ひたいのである。』

まるで謎々だ。あにチョット面白ろからざるを得んぢやないか。

社會と個人

小原愼三

從來、心理學者や哲學者は思想といふものゝ泉源を個人に求めてゐた。然し是は非常なる誤謬と曰はればならぬ。如何となれば先づ第一に思索を行ふものは個人では無くして社會である。從つて思想の泉源は之を個人に求めないで、此の個人を圍繞せる社會に求むるが當然である。個人は唯だ之を包繞せる社會より得たる種々の印象が可能ならしむる以上の思索をば到底爲し得べきものではない。

力學や光學に入射角と反射角の法則といふのがある。此の法則に依ると一定の入射角には必ず一定の反射角が隨伴するといふのである。斯くの如き法則は啻に物理界のみならず、又人間の精神界にも存在してゐる。即ち一定の角度を以て個人の心理に入射して來た精神的の光線は、必ず一定の見解とか思想とかいふ反射角に依つて發現するものである。社會に於ける個人は彼の三稜鏡（プリズマス）と同じ働を爲すものである。三稜鏡が外部より光線を受けて、是を一定の法則の下に屈折せしめ、更に又之を一定の色彩に分斷して一定の方向に放射するが如く、個人も其の外界よ　得たる種々の印象を一定の規則の下に反射するに過ぎない。

一體、人間といふものは、生れてから成長する迄、其の四周に對して全然受働的の態度を採つてゐるものである。先づ人が生れて第一番に享ける感化は其の兩親、乳母の如き最も之に接近せる人々の態度及び思想である。斯ういふ時代に吹き込まれる善とか惡とか罪とか罰とか、或は希望とか恐怖とかいふ樣な觀念は、此の兒童が生成した後に於いて得る倫理思想や道德觀念の根本的要素となるものである。

斯くして兒童が稍々長じて、其の「遊び仲間」といふ小社會に入ると、其の外界より享ける感化影響は愈々益々甚だしくなる。即ち或種の人々に對する憎惡若しくは尊崇の念から、飮食物に對する趣味嗜好に至る迄、一切のものが悉く外界より注入される。

斯くして出來上つた個人といふものは、要するに社會に既存せる總ての思想、風俗、習慣等の一部分を代表せる小社會を成せるものに過ぎないのである。故に考へたり、感じたり味はつたりするものは事實に於いて個人では無くして社會であるといつて敢て差支がない。而して斯くの如く四周より注入される一切の思想風俗習慣は、實に過去幾千年に亘れる人類社會の精神生活の沈澱物が個人の腦裡に於いて結晶したものである。人類が社會生活を始めて以來發生した總ての思想や習慣は時代から時代へと傳承されて行つて、各時代々々に於ける社會の個人といふ焦點に凝集して其人特有の思想、其人特有の習慣と成つて發現するに過ぎないのである。故に個人といふものは、如何に藻掻いても、悶えても其時代を超越し、其時代の思想、習慣風俗の一切を離脱することは到底出來ない。

人類を改善し得べき力を有するものは唯だ智識のみであるとはバックルの言である。此の言の眞理なることは何人も肯定する所であるが、然し是れには一つ條件がある。それは智識が個人に影響するに先だつて、先づ社會に影響せられねばならぬことである。個人が實社會に現はれる時には彼は既に鑄造された貨幣の樣なも

のであつて、新らしい智識の力を以てするも到底是を根本的に改造することは出來ない。智識は必ず社會といふ團體を通し、社會といふ雰圍氣に混じてのみ個人に影響を與へることが出來る。

此の樣な解釋を下すと個人といふものには全然自由といふものが無いことになつて了ふ。而して事實に於いて個人は全然必然といふものに支配されてゐるものであつて、決して自由等のあり得べき筈がない。人間の自由を信ずる思想は、個人の一擧一動は其の思想の產物である。此思想は又個人獨特の領域、個人獨特の所有物であるといふ誤りたる見解に基いたものに外ならぬのである。

社會が個人に對して斯くの如き偉大なる影響を有するものなることを否定する人は、更に次の樣な事實に注意するが好い。社會は啻に個人の精神の全部を造り上げるのみならず其の肉體的方面にも實に著しい影響を及ぼしてゐる。現に今日、歐洲に於ける諸國民を見ても直に了解されることだが、英國人でも、佛蘭西人でも獨逸人でも、皆それぞれ一種特別なる典型を有してゐるではないか。且又英國に數十年定住する獨逸人等が次第に其の本來の國民的典型を失つて、英國人の典型を帶びて來ることも人の善く知れる事實である。而して此等諸國民の間に於ける典型的の差異は實に言語を以て說明することの出來ない機微なる點に現はれてゐる。そして之を完全に現はすには、唯だ畫家の筆を俟つより外はない。然らば、此の國民的典型の差異は、果して何に依つて起るものであらうか。

此の問題を人類學に依つて說明せんとすることは到底不可能である。何んとなれば國民的典型の差異は人種の差異といふ樣な事實に基いたものではなくして、徹頭徹尾社會的の事實に基いてゐる。若し人種の差異が國民的典型の差別の原因であるならば、獨逸人が英國に永住することに依つて其の本來の典型を喪失して英國的典型を得る樣な事實を如何に說明すべきであらうか。

故に國民的典型の差異は、一國々々が有する一種特別なる社會的の雰圍氣が個人の精神及び肉體に滲徹した結果に外ならぬものである。然らば斯の如き特殊なる社會的雰圍氣が如何なる理由に依つて個人に影響するものであらうか。

我々が日常感ずる所の喜怒哀樂等の情は、常に一定の形式の下に肉體に作用することは人の善く知る所である。是れと同じ理由で個人が社會に影響されて一個の社會的の典型を作るに至るには、必ず先づ第一に其の氣分に影響を享けねばならぬ。個人の氣分が既に社會的の雰圍氣と同化し、之を全然吸收した以上は、此の氣分は必ず個人の肉體を通じて行爲とか所作とか身振とかいふ形式の下に發現する。唯だ此の氣分が個人の外貌や行動を變化せしめて行くことは、彼の喜怒哀樂等の感情が直接肉體に激烈なる影響を與ふる程、急激なる性質を有するものではなく、長い年月の間に徐々として甚だ遲漫なる影響を加へて行くのである。

個人といふものゝ成立を此の樣に見て來ると、從來哲學者や心理學者が特に强調してゐた個人の自由といふものは、何れに於いても之を求むることが到底出來なくなつて了ふ。然り、個人の思想、感情、及び其の發現たる個人の一擧一動は、皆是れ悉く、個人を包圍する社會といふ大雰圍氣の作り上げたものである。個人は此の雰圍氣の中に生れ、之を呼吸し、この中で生を終る以上には何等の力もないものである。

（グンプロヴヰッツ著社會學の一章、Das Individuum und seine soziale Gruppe に據る）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

自然淘汰說

高畠素之

生存競爭上必要なる性質が同一種屬中の大多數の個體に同時に發生した場合でなければ、自然淘汰の作用は決して進化を呼起すものではない。

例へば爰に百匹の同種個體があつて、其中四匹だけが競爭上有利なる性質を有するものと假定する。いま生存競爭の結果此四匹以外に尙十六匹が生殘つたとする。此場合若し四匹と六匹との間に混合交尾（panmixie）が行はれずして、四匹は四匹同志交尾し、十六匹は十六匹同志交尾するものとすれば、四匹の有する特長は代々子孫に傳はつて、遂には原種と全然趣を異にせる新種屬を生ずる筈であるが、若し此四匹が他の十六匹と交尾し、外に尙十六匹中の十三匹が夫々交尾したとすると、此四匹の有する特長は次の代に至つて非常に減少し、更らに其次の代に至つては、少しも特長を有せざる他の十三匹の子孫と交尾する結果、益々其特長を失墜して、遂には全く其痕跡をすら失つてしまふ。而して實際には寧ろ此後者の場合の方がプロバビリテーが多い。

されば自然淘汰が有効に行はれ得る爲には、自然淘汰の起る以前に、既に競爭上有利なる性質が同一種屬中の大多數の個體に同時に發生し居ることを條件とせねばならぬ。此條件の具はれる限り、自然淘汰は確かに進化の原因となる。

而かして此條件の原因としては、氣候、風土、食物、及び機關使用の有無等を擧げることが出來る。例へば、純粹の陸棲鳥類は一般に蹼を有して居ないが、埃及ナイル河の上流に產する鳩の種屬には、今尙ほ立派に蹼を具へたものがある。

何故此地方の鳩に限つて蹼を具へて居るかと云ふに、一體、ナイル河の上流は兩岸極めて嶮はしく、加ふるに水勢甚だ急なる爲、鳩は河岸に立つて水を飲むことが出來ぬ。夫で仕方なしに水面に浮ぶのであるが、此習慣が長い間續いた結果、此地方の鳩は一般に蹼を具へる樣になつたのである。されば、此現象は單に足を水中に使用すると云ふ習慣の結果として生じたのであつて決して自然淘汰の結果として生じたのではない。

又た一八六四年以後、歐羅巴から北亞米利加に輸入された雀は、氣候風土の變化せる結果、歐羅巴の原種に比して非常に變化性が強くなつたと云ふことである。

一體、極端なるダヴィニストは、生物の機關に變化の起るば、總て皆な自然淘汰の結果であると主張するが、事實は寧ろ自然淘汰の起る以前に、既に風土、氣候、及び機關使用の有無等によつて或程度の變化が生じてゐたので、其變化が若し生存競爭に必要なる場合には自然淘汰の働によつて益々發達するが、若し生存競爭に有利ならざる場合には、自然淘汰に何の益する所もない。

例へば、前記の鳩の場合でも、既に足と云ふ機關を頻繁に使用せる結果、多數の個體に蹼の萌芽が發生して居る故、一朝、陸上の猛獸に襲はれた場合にも、比較的蹼の發達せる個體は長く水上に浮び居て敵の襲擊を避けることが出來る。從つて敵の襲擊を受くること頻繁なれば頻繁なる程、彼等は後に生殘つて其特長を子孫に傳へることが出來る。

又た哺乳動物の頭蓋骨盤は多數の小片から出來てゐて、生長す

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ると此等の小片は互に密合結着するが、まだ母胎に居る時分には其接合が極めて緩い。つまり胎兒が母の胎內を出づる時、其接合の緩い頭蓋骨盤が巧に密接して、恙なく母親の骨盤を通過し得るための用意なのである。

是に依て觀ると、哺乳類の胎兒の頭蓋骨盤の伸縮自在なるは、如何さま母親の骨盤を傷めざる必要上生じたものゝ如く思はれるが、卵生の爬虫類に於いても既に此現象の顯はれて居る所を見れば、此推測は必しも當つて居らぬらしい。既に爬虫類時代から存在してゐた性質が、哺乳類の代に及んで、自然淘汰の影響を受けて頓に發達したものと觀る方が適當であらう。

要するに、自然淘汰の働が生物進化の原因となり得る爲には、其自然淘汰の起る以前に既に風土、氣候、食物、機關使用の有無等によつて、競爭上有利なる性質が多數個體の間に生じ居ることを要するのである。然しながら、之等の原因によつて生ずる變化は、常に必ず其個體の競爭に必要有利なる性質を齎らすものとは限らぬ。若し之等の原因に依つて生ずる變化が、個體の競爭上必要なる變化で無ければ自然淘汰の作用は決して進化の原因とはならぬ。

更らに語を換へて言へば、風土、氣候、食物、及び機關使用の有無等によりて生ずる同種個體多數の變化が其生存競爭に有利なる時は、自然淘汰の助勢によりて此等の變化は益々發達するが、若し多數個體の競爭上、害にも益にもならぬ場合と雖も、既に之が多數個體の間に及んでゐる以上、長い間には新らしき種屬を生ぜぬとも限らぬ。たゞ此等の變化が競爭上有害なる場合には、其變化を受けた個體は遠慮なく削られてしまふ。

（リヒアード・ヘツセに據る）

親と子

安成二郎

兒が悲し里に遣られし兒よりも我が身が悲し其日に追はれる

豐葦原瑞穗の國に生れ來て米が食へぬとは噓のよな話

子を生みてストリンドベルヒの疑もさはさりながら暮しの切なさ

生れし子を八十五日目に里に遣り共稼ぎする共稼ぎする

豚小屋のやうな二階にちゞこまり乞食のやうに腹へらしゐる

わが子よ里にゐるのがもしいやなら天國こそお前によからめ

お前の母は貧の中にお前を孕み父は貧乏してお前を厄介にする

かく云ふは先づ父母にそむかしめ反逆人とならしめんため

妻よ無限の生殖力をもつ如きお前のからだと經濟組織と

無智のあはれさ夫と子とを養ひて奴隷の如く働く女よ

憎き子よされど汝が死にもせば父は氣狂ひになるかも知れず

どんなにしても食て行ると妻の言ひし言葉腹立たしさうは思へど

大きくなれば鰌捕りに連れて行くと子の乳兄弟が云つたさうだ

オコーンアーなど可愛いく云ふ頃里に遣りしが未だ齒は生えぬや

月のものがあると聞く時安心の溜息をしてペンを投げ出す

ガンガ・ディン

—(Rudyard Kipling)—

仲木貞一譯

御前達は、國内に安全に野營して、
小ぜり合ひの演習でも、やらされると、
チン酒だ、ビャだとほざくだらうが、
一と足實戰に向ふとなると、
水が欲しさに夢中になつて、
水くれる人のなら、穿き古した靴にでも、
　しやぶり附く事だらう。

己は今インヂアの暑い所で、
女王陛下の御ん爲めに、つらい奉公をして居るのだ。
顏の眞黒い仲間の中に、
至極感心な奴が一人居つた。
ガンガ・ディンと云ふて聯隊の水運びだつた。
彼奴を呼ぶには『ディン！ディン！ディン！
『跛者のへちやもくれのガンガ、ディン！
『早く、來やがれ！跛者野郎！
『水を持つて來い！早く持つて來い！
『鼻ぴしやげの、老ぼれ爺のガンガ・ディン！』

彼奴の着て居る制服は、
前は素つ空ぽで、後ろも素つ裸。
繼ぎ剝ぎだらけの襤褸一片と、
たつた一個の水入嚢とが、
彼奴が戰場での唯一の身代。
汗たら〱の兵隊樣の汽車が、
日中、側線に横はつて、
疲れた瞼が暑さの爲めに匍ひ出す時にや、
皆一聲に『早く持つて來い！』と、
喉が干輕びて煉瓦のやうになる迄呼び立てる。
そして己達は彼奴を打叩く、己達の用事を
一度にしないからとて。
『こら、ディン！ディン！ディン！
『おい、こら、異敎徒め、何所から其んな
　名を拾つて來やがつた。
『急いでやらかせ、
『己の甲に水を入れないと、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

『投ぐり倒すぞ、ガンガ・ディン！』

彼奴はえッちら、おッちら、足を引摺る、
永い一日の日が暮れるまで、
怖いと云ふ事等はちつとも知らんで。
己達が突撃をやる時、列を亂して走る時には、
彼奴は疲れた頭を的にして、
右翼後方五十歩の所に待つて居る。
背中に水嚢を引つちよつて、
己達の突撃に追いて走る。
そして『退却』喇叭が鳴る迄 はぢつ と眺めて居る。

彼奴の表ては汚いけれど、
心の中は綺麗で眞白だ。
彈丸を潜つて負傷者の看護に行く者は！
それは『ディン！ディン！ディン！』だ。
彈丸が砂煙を上げて草の中に落ちる内を。
身方の彈丸が盡きた時には、
前線の方から呼び立てる、
『おーい！彈丸の駄馬とガンガ・ディン！』
――

あの晩の事は忘れられない、
帶金の所に彈丸が當つて、
戰鬪線から己は落伍した。
喉が乾いて、氣が狂ふ程息が塞つたその時に、
最初に己を見出してくれたのは、
この人の良い、老ぼれ爺の、白齒をむき出して、
喉をごくく附かせるガンガ・ディンであつたのだ。
彼奴は己の頭を持上げて、
血の吹く所から彈丸を拔き取つて、
青苔の生えた生水を半杯飲ましてくれた。
水が喉にぬめり入ると、厭な臭ひがプンとした。
然！己はその水を皆飮込んだ。
ディンから貰つた水に感謝したのだ。
『おい、デイン！ディン！ディン！
『臟腑を打貫かれた奴が此所に居る、
『地べたに喰い附いて、
『其所等ぢうを、蹴散かしてる。
『神の御爲めだ、水を呉れてやれ、ガンガ・ディン！』

彼奴は擔荷（たんか）の所迄己を運んで行つた。
其の時彈丸は飛んで來て、見事に彼奴を貫いた。
己を内に安全に置くや、
彼奴は忽ち死んで了つた。
『何卒心よく飲んでくんなされ』とディンは云つたのだ。

彼奴が旅立つて行つたあの世界で、
己はやんがて會へるだらう———
其所では常に練兵が二倍もあつて、酒保なんかは無いのだらう。
彼奴は石炭の上に腰かけて、
哀れな亡者達に水を吳れてやる事だらう。
己もその地獄で、ディンから一杯惠んで貰はう
然うだ、ディン！ディン！ディン！
印度露西亞皮（ラズルシアンがわ）のガンガ・ディン！
己はお前をひつぱたいたり、素裸にもしたが、
お前を造つてくれた生神樣（いきがみさま）に誓つても云ふが、
お前は己よりも餘程善人なのだ、ガンガ・ディン！

道ばたで

オクタヴ・ミルボウ作

大杉榮譯

通りがかりの人。なんで、そんな泥の中に倒れてるんだ。なぜ泣いてるんだ。

百姓。俺らア、三日もあるき廻つて、なんにも食はねいだ。くたばつただ。

通りがかりの人。一体どこへ行くんだ。

百姓。爪さきの向く方でさア。いつでも爪さきの向く方でさア。とりいれの間は、俺らも働いた。歌ア歌つた。……… それやうまい、うまい黑パンだつた。……… 今は麥束もこまれただ。仕事もしまつただ。でつかい機械が、もう人の仕事なざいらねい倉ん中で、麥サぶつて、箕サ簸るだ。で、旦那ア俺らに、『出て行け』て云つただ。それで俺らア出ただ。……… あちこち門サ叩いたが、どこでも開けてくんねい。……… 俺らにや、もう仕事がねいだ。……… おめいさまも見なさる通り、畑アからつぽだ。……… これで一番しまいの木の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

葉が落ちると、雪で地が眞白になるだ。女みていな綺麗な、むごい、あの雪で。鳥とやどなしサ殺す、あの雪で。………俺らア、からだかぶせる、マントもねいだ。あつたまる圍爐裡もねいだ。腹アふさげる、堅いパンのかけもねいだ。………俺らアどうなる事と思はしやる。これぢや死なねばなんねいだ。………ところが、けさ、俺らア若けい旦那さまと途づれになつただ。………そのふとア、背中に、でつかい袋サかづいでる。黄金が一ぺいへいつてた袋だ。そのふとア、その荷サあんまり重くなつたで、俺らにかう云つただ。『貴樣は丈夫な腰をしてる。貴樣の肩は、へしつぶすやうな重い荷を、かづくのになれてる。さア、この黄金をかづいて行け。』………俺ら石につまづいで、三度もころんだ。………若けい旦那さまア俺らサぶつた。『さア、あるけ、馬鹿!』………やがて旦那さまア川つぷちでとまつた。底もねい、黒い水のとこだ。旦那さまア云つた。『おれは遊ぶんだ。見てろ、この黄金を川の中に投げいれるんだ。』………俺らア旦那さまに願つた。『川ん中へこの黄金サ棄てなさんなら、俺らにちつとばり下さらねいか。あんまりかつえねいだけの、ほんのちつとばり。』………そのふとア俺らの面サ痰ぶつかけた。石サ投つて俺らをぶつぱらつた。それから黄金サ握つて、底もねい黒い水んとこへ、川ん中さ投げた。そうして笑つて行つただ。………その通り路じや、金持だの貧乏人だの、みんな低うお辭儀してたが、俺らア、みんなにぶたれて、棒だの木叉だので、ぶつぱらはれただ。………見なせい、俺らがからだ中血だらけだ。………

通りがかりの人。　これからどうするんだ。

百姓。　またあるき廻るだ。また金持の門サたゝきあるくだ。

通りがかりの人。　若し金持の門が、お前の近づくんで、閉まつて了つたら。

百姓。　俺らア、大道で、貧乏人にほどこしサ願うだ。

通りがかりの人。　若しだれも、お前になんにもくれなかつたら。

百姓。　俺らア、道のまがりかどで、まちぶせして、人殺しするだ。

通りがかりの人。　人殺しなぞしてはいかん。

百姓。　俺らア生きて行かねばなんねいだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

逍遙先生の反譯振

澁　六

▲坪内逍遙先生譯「ウォーレン夫人の職業」が出た。自分も少しはショウの物を譯して見たりして居るのだから、心得のためにチョイと其の反譯振を拜見した。

▲初め四五頁ばかりを一讀した時には、何だかひどく斯うマズク思はれたので、是は迚も先生が自ら筆を執られたのではあるまいと思つた。然し人の話を聞いて見ると、中々そうではない、正に先生苦心の筆の跡だと云ふ。それではと今一度讀み直して見ると、ナアルホド「件の建物は」「押附がましうて失禮ですが」「太陽が照らいて」などいふ所は、爭はれない先生の特色である。

▲然し幾ら讀返しても、まだどうも面白く感ぜられぬ。是は自分の先入からしてこんなに感ぜられるのかと思つて、今度はあちこち原文と照し合せて見た。それでも矢張どうも感心が出來ぬ。そこで其の感心の出來ぬ所を少しばかり茲に書きつけて見る。

▲と云つて、何も大家先生に對して意地の悪い事をする譯では無い。誰の反譯でもどうせ幾らか無理があつたり、間違があつたりするに極つて居る。それを調べて見たりするのは、自分も幾らかそんな事に苦心して居るからの研究心で、只同好の人と之を樂みたいと思ふ計りの筆のすさびである。

▲第一幕の舞臺割の文の第二行目に「丘を見上げると、件の建物は庭園の左手の隅に見えて」とある。其の原文は左の如し。

Looking up the hill, the cottage is seen in the left hand corner of the garden,—

譯文では人が丘を見上げる事になつて居るが、原文では其の建物が丘を見上げるといふ文法上の關係になつて居る。即ち田舍家が丘に面して、庭園の左の隅に立つて居るのである。譯文では左右が違つて居る。

▲序に第二幕の舞臺割の文の第一行及び第二行に「前の田　家敷の室内。……外から西の方をではなく、内から東の方を見ると、カーテンを引いた格子窓が屋敷の前面の壁の中央に見えて」とある。「家敷」といふ言葉には家と敷地とが含まれて居るらしいので、「家敷の室内」といふ句はどうも穩かで無い。況んや其の室内の事を記すのに「屋敷の前面の壁」ではどうも工合が悪い。然しそんな事はマアどうでもよいとして、「外から西の方をではなく、内から東の方を見ると」といふ一句の意味がサッパリ分らぬ。原文には斯うある。

Looking eastward from within instead of westward from without, the latticed window, with its curtains drawn, is now seen in the middle of the front wall of the cottage,—

こゝでも譯文では、人が東の方を見る事になつて居るらしいが、原文では窓が東の方を見て居る（即ち東の方に向いて居る）のである。即ち第一幕の時には、窓が「外から西の方を」見て居たのだが、第二幕では其の位置が變つて、「内から東の方を見て居る」といふのである。今少し分り易く云へば、先のは窓の外面が西の方に向いて居たが今度は其の内面が東の方に向いて居る處だと云ふ説明である。文藝協會が若し此の譯文のみに依つて此劇を演ずるとすれば、舞臺を拵へる時に嘸當惑する事だらうと案じられる。

▲マズイとか、ウマイとか云ふ事は、兎かく水掛論になりやすいから、少々でも意味の違つて居そうな所をツイ見あたつただけ擧げて見る事にする。

▲第八頁に「貴孃を世間並に育て上げやし

ないかと心配してゐた」とある。此「世間並」の原語は Conventional である。然るに直ぐ其次に、『私が習慣に外れたやうな行爲をしましたか」とあつて、其「習慣に外れた」の原語は unconventional である。なぜ「世間並外れ」としなかつたのだらうと怪しまれる。然しそれはマア好いとして直ぐ又其次に「いゝえ、どう致して。少くとも世間並の意味で世間並に外れた事をなさりはしない」とある。其原文は左の如し。

At least not conventionally unconventionally, —

是は譯者が原文の意味を誤解したとまでは云ひかねるけれども、若しや十分明晰に理解しなかつたのぢや無いかと推せられる。兎にかく此の譯文が原文の意を人に傳へぬ事だけは確かである。文法上から云つても「世間並の意味で」の下に「いふ」か「の」かを入れねばならぬ所である。少くとも私は此の譯文で意味が分らず、原文を見て初めて分つた。ツマリ此の意味は「世間並外れと云つても、世間並の世間並外れでは無い」といふので、更に分り易く云へば、「月並の並外れでは無い」「平凡な破格では無い」と云ふのであらう。

▲第五〇頁第七行に「手傳つて肩掛を脱がせる序でに、指先で以てお疲れでせうといふ風に、一寸肩の處を撫でゝ」とある。其の原文は、

Helping her to take off her shawl, and giving her shoulders the most delicate possible little caress with his fingers as he does so.

「お疲れでせう」といふ樣な言葉も意味も原文には丸でない。それに caress を撫でるとしては一向に情が移らない。又 most delicate possible little の四字を一寸と譯して了つたのは餘りお手輕すぎる。是は「肩掛を脱がせながら、其序でに指先で以て、ホンのちよつと、輕く、幽かに、肩のあたりを突ツついた」と云ふ樣な意味だと思ふ。試みに有りあはせの字書で Caress といふ字を引いて見るに、『英和辭典』には『撫でさすり』といふ譯字が眞先にあるが、Chamber's Dictionary には to treat with affection : to fondle : to embrace とあつて、撫でるといふ意味は無い。尤も撫でるのも情を表する一つの手段には相違ないが、それは大抵猫の脊中か小供の頭かに對する場合で、男子が女子に對する場合は、抱きしめとか、擦りつけるとか、抑へるとか、さはるとか、突ツつくとか云ふ樣な事になる筈だと思ふ。

▲又直ぐ其次に「肩を撫でられたので一寸流し目に見返りながら」とあるが、as she detects the pressure の一句は、「其の突ツつかれたのに氣が付いて」とでもあるべき所だと思ふ。

▲第五八頁第二行に him を彼女と譯してあるのは特に云ふ程の事でも無いが、第六〇頁第四行に Mrs. Warren's face falls を「ウォーレン夫人うつむく」としたのは不注意の間違として許す事は出來ぬ。顏が落ちるとはうつむく事ではない。熱心の色がさめたとか、しよげたとか云ふ樣な意味である。關西語で天氣が落ちると云ふのと善く似て居ると思ふ。

▲第九七頁第八行に「だれだつて心にもない務をして金を拵へるのを好く者はないよ」とある。其の原文は左の如し。

Every-body dislikes having to work and make money.

「誰だつて働いて金を拵へる事を好く者はないよ」といふのが原文の儘である。逍遙先生が自己の倫理的傾向からして「心にもない務」といふ言葉を附加したのは、大いに原文の意を損じて居る。

▲最後にモ一つ書き添へる。No, thank you がいつも「いゝえ、ありがたう」と譯してある。「いゝえ、モウ澤山」といふ日本語はこんな所に用ひられないのか知らん。それから Oh といふ言葉が總て「おう」としてあるのも耳ざはりだ。猶モ一ツ、ウオーレン夫人が幾ら地金を出したにしても、「予（おいら）」といふのはあまりのやうだ。

『女學生』

——ストリンドベルヒ——

柴

一

柴田柴庵氏によつて、ストリンドベルヒの『女學生』が飜譯せられた。僕は『此の女學生』が作者の作物中どんな地位を占めてゐるか、又此の作自身に何れ程の藝術的價値があるか、それは知らん。且つそれは敢て僕の問ふ處ぢやない。僕は只此の作の中に現れた思想を觀れば善いんだ。

女學生ブランシュは、有福な二人の伯母の自分勝手な親切の下に、囚人のやうに看守され束縛されながらも、十分に養育され教育されて來た。彼女は此の二人の看守人が苦痛でならなかつた。

『實に彼等は彼女に衣服住と教育とを與へてくれた。けれども子供といふものは、單に衣服住を給せられる事によつて、感謝の念を起すことは出來ない。それは人間が生其物のためばかりに感謝しなければならないといふ事が、未だ嘗て發見されてゐないからである。』

そして其の教育はと云へば、『彼女は凡の性に對して復讐するために選ばれたのである。彼女は學生になつて、女性が男性に劣つてゐないといふ事を、世界に示さなければならなかつた。』しかし彼女はこれで滿足は出來なかつた。

彼女は大勢の男の學生が歌をうたひながら、太鼓や旗をもつて自由に遊び騷いでゐるのを見て、『若しも私が男だつたら　』と歎いた。

『情熱の燃える時代に聞える、女性の此歎聲は何であらう。男の壓制に對する激昂だらうか。否、ブランシュは實際二人の女からいじめられてゐたのだ。そして凡ての男も亦、其壓制に對しては憤慨してゐるのだ。……女の自由に對する憧憬は、男のそれと同一のものではあるまいか。』

彼女はうんざりした。卓の上の書物を讀んで見たが、『國家に許可され、且つ保證付けられた凡ての此等の書物の中には、自由解放の言葉は一つも拾讀する事が出來なかつた。』

二

彼女はツウエエリヒ大學に入つた。新聞は盛に讃め立てた。『女子の自由解放は實現さるべしと思はる。女子の目的は子を產み、それを哺育するにありといふ、百年來の先入觀念は、今や根底より覆されぬ。今日此際に當つて、吾人がブランシュ・シヤビユイ孃が女醫志願を以て、ツウエエリヒ大學の入學試驗に合格せられし事を、諸君に報告し得る事を喜ぶ。』

彼女は『一番馬鹿な青年さへ合格の出來る大學の試驗に、女子どもが合格したからといふので、それを世間の人たちは、大業にも珍しいことだなどゝいふんですもの』と嘲つた。『何故凡ての青年たち、凡ての職工たち、勞働者たち、百性たち、商人たちは、試驗を受けないのでせう』と疑つた。そして、それは單に金錢問題に過ぎないと斷じた。『人が有力な友達か親戚を持つてゐるために、それで智識を修得する事が出來るものとすれば、』それを誇るのは『丁度新しい天鵞絨の衣服を買ふ時に、媒介者を立てましたと吹聽する』やうなものだ。

三

彼女は大學で助手のエミイルと近づきになつた。助手は彼女に自由の翼を與へるために、露西亞人の學生の集會へ連れて行く約束をした。『正直と眞實其物のやうに見えた』助手は彼女が伯母を憚つてゐるのを知つて、『女の謀殺者』なる伯母を欺す事を教

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

へた。

ブランシュは家に歸ると、『彼女の心に抱いてゐた秘密が、彼女と伯母との間に壁のやうに持ち上つてゐるのを感じた。緑縛は切れてゐた。彼女は彼等から受取つてゐない、何者かを持つてゐる事を信じた。それは彼女の所有物であつた。そして其處には彼女の新しい思想と彼女の秘密があつた。そこで彼女は、此の緑縛がどんなに弱いものであつたかを考へた。』

彼女は露西亞の青年男女の自由な生活を見た。自由な思想を聽いた。所有權の性質それから生ずる道德の墮落、要するに現代社會の假面を剝いて見せられた。

ブランシュとエミイルは戀仲になつた。けれども彼は結婚の約束を肯じない。『自由を與へる事の出來るのは、たゞ未來だけです、私共はみんな今奴隷なのです。そして鎖を擦切らうとする有らゆる試みは。嚴しい禁錮を通して自分で自分を懲らしめるのです。』

四

大學に騷動が起きた。露西亞人と及びそれに連累した學生が、大勢退校を命ぜられた。化學實驗室の助手エミイル・ズツヒアルドも放逐處分を食つた。

二人の事が伯母に知れた。ブランシュは泣いて、『ほかの人たちのやうでなく、私共のやうに』と結婚を迫つた。けれどもエミイルは頑として聽かない。『兎に角私共は生きなければなりません。また貴方が何をなさるにしても、それが貴女を自由にし、私から自由にする時、即ち貴女が全く自由になる時に、その時こそ私は貴女に會ふ事が出來るのです。其時こそ私は、私の妻としての貴女にお合ひしませう。』

二人は別れた。ブランシュは『人間に惠みを施す者が、人間の不幸によつて生きなくてはならない』醫者になつた。彼女は男の醫者、女の醫者、及び無知なる患者と戰つた。長い間悲慘な日が續いた。

五

『逼迫の聲は益々高く叫んだ。そして彼等(彼女と伯母)の靈は、食物の缺乏から永遠の死に這入らうとした。其時ブランシュは殆んど一ヶ月の間、家又家を駈けずりあるいた後に、漸く北佛蘭西に、工場醫としての位置を見付けた。

それは『實現された夢想郷』であつた。共產村であつた。彼女は其處でエミイルに會つた。二人は再び握手した。

しかし此の共產村は、彼等の自信のある建物は、古い建物の上に、ぐらぐらに建てられたものである。本當の完全に近づくためには　猶彼の古い建物全体の猛烈な『更期』を經ればならん。そして彼等は『其最後の大きな爆發』を助長すべく、『生きられる中は生きてゐなければならぬ。』

斯うして始めて、『貴女は私の妻として自由です。人間としても自由です。……それでこそ、ほんとうに私共の夢想郷が實現されたといふものです。そしてあの憎らしい人間は、それが實現されないといふ所から、さういふ名前をつけました。』

『それはそれを彼等が望んでゐなかつたからなのでございます。』

『或はおそらくそれを知らなかつたのでせうよ。』

エンゲルスは其著『社會の起源』に、『眞の自由戀愛は共產制度の下でなければ實現されない』と云つてゐる。戀愛ばかりぢやない。一切の自由がさうなんだ。僕は此の短い一篇の小說の中に、婦人問題の要所要所が、甚だ明瞭に說明され且つ解釋されてゐるのを喜ぶ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

眼の挑戰

和氣律次郎

子爵夫人——ご親切なお手紙で恐れ入ります。私こそ誠に失禮いたしました。あゝいふ所でお目にかからうとは全く思ひがけのない事でございました。お邸へお出入をしなくなつてから彼是五年になります。度々歌舞伎座や音樂學校なぞで、あなたの御姿をお見受けした事はしたのですけど別にお目にかかりたいとは思ひませんでした。

あの晩も幕合の混雜を避けて、わざと幕が開いてから食堂へ參つたのでしたが、偶然あなたにお目に掛つたのです。あなたが向ふを向いてゐらしたので何の氣も付かず隣の卓へ腰を下し連れと食事をしてゐる中に不圖あなたの眼と私の眼とが出合つたのです。あなたは運命だとおつしやいますが、私は寧ろ偶然だと思ひます。然しある一つの點から反對の方向に出立した線でも平行線でない限りは再び出合はなければならないものださうでございます。

子爵夫人——あなたは此五年間絶えず私がどうしてるだらうと案じて下すつたさうですね。誠に有難ふございます。然し親や兄弟の事を、ついぞ思ひ出した事のない私には何んだかあなたのお言葉が變に聞えて爲方がありません。勿論私だつて人間ですから時々はあなたは何うなすつてゐらつしやるだらうと思つた事もあります。然しそれは刹那の閃光ですぐ消え去つて了ひます。あなたに會ひに行かうかなぞと思つた事は只の一度もありません——いや有ります、たつた一度あります。それは三年前の洪水の時です。

私は社から群馬埼玉二縣の水害視察にやられました。東京を出て三日目の朝私は徒歩で碓氷峠を越しました。アブト式線路の起點から上ると十數町にして下瞰すると、碓氷川の河床には流木が白骨のやうに累々と横はつてゐました。小さな鬼灯提燈の光を頼りに千九百九十二呎もあるS字形の第六隧道を通過した時の心細さつたらありませんでした。サタンの腹の中のやうな闇のレールを歩いて行くと、隧道の上壁から水滴が雨のやうに落

下して來て蠟燭の火を消さうとするのです。レールと左右の壁との間には闇を流るる水の音が物凄く聞えます。やつとの思ひで合計二十六個の隧道を通過して海拔三千八十六呎碓氷峠の絶頂に立つたのは夕霧が深く輕井澤を罩めて淺間の噴煙が夢のやうに淡い頃でした。

子爵夫人――輕井澤はあなたにも私にも思出の多い所でございます。未だ欽一君が生きてゐられた頃、そこの別莊で送つた二た夏は砂漠に等しい私の生涯のオエシスだつたのでございます。然し洪水の當時中谷地原頭に立つて展望した輕井澤は砂漠の中に建てられた町でした。新舊兩輕井澤間の國道は全く破壞せられて了ひ幅半町もある河が砂の中を流れてゐるのです。殊に舊輕井澤の被害はひどうございました。西四番五番附近の外人の別莊は砂礫の爲めに埋沒せられ、三笠ホテルの日本館は倒壞して居りました。よく欽一君と二人で借馬を乘り廻はした中谷地の原も、あなたと三人で月見草を採つた山崎川の畔も、燒石の爲めに荒涼たる砂漠と化してゐたのでございます。

私はその日の長野の新聞に『××子爵夫人は目下輕井澤なる別邸に滯在中なるが、同別邸には別に被害なき由』云々の記事を見て、あなたが輕井澤に居られる事を知つてゐました。輕井澤が洪水の爲めに全く破壞せられてゐるのを見た時、私は突然あなたにお目にかかりたいと思ひました。若し其時私がお訪ねしたらあなたは何んなに吃驚なすつた事でせう。然し『あるもの』が私の心を制して私はとうとうお訪ねしませんでした。私は淋しい一夜を新輕井澤の宿屋に過して翌朝早く出發して了ひました。

子爵夫人――あなたは『以前のやうに遊びに來てくれ』とおつしやいますが、それは不可能ではないかと思ひます。あれから五年經つて居ります。而かもその五年は少年から青年に移る大切な時期でございました。私はあなたのご厚意に背いたのみか、間もなく學校をも止して新聞社へ這入りました。四年間の新聞生活は私の性格を全く一變して了ひました。境遇の爲めに性格が變化したといふよりも、寧ろ人間として私が有してゐた惡ばかりが發育成長して善が退化萎縮したのでせう。兎に角私はスカツリ變つて了つたのでございます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新聞記者といふ者は或意味に於て梟に似て居ます。彼は常に社會の裏面――闇黑――から獲物を掠奪して來るのです。これが梟の食物です。四年間には隨分いろいろの獲物がありました。家族五人――夫婦、娘、嬰兒、老婆――が鼠ででもあるかのやうに慘殺されてゐるのも見ました。尊い血を承け繼いでゐるといふ貴族の子が、賤しい稼業をしてゐる女と毒藥を仰いで心中してゐるのも見ました。敎育家とか政治家とかいふ人々が賄賂を取つて珠數繫ぎにされたのも見ました。其他强盜、强姦、放火、殺人、詐欺、自殺、姦通、竊盜あらゆる犯罪といふ犯罪の原因と結果とを目擊したのでございます。

子爵夫人――こんな事を申上げましても、あなたには何の興味もございますまい。只四年間の經驗は私の感覺を進化せしめたと同時に退化せしめ、私の神經を過敏にしたと同時に遲鈍にしたといふ事を申上げたいのでございます。私は有らゆる物を信じない――と云つて別に積極的に疑ひもしないのでございます。土左衞門や首縊りを見て來たつてご飯が喰べられないなんて事はございません。生活のみではありません。心が砂漠に化して了つたのでございます。

あなたは今年三十六か七におなりなすつた筈ですが、相變らず若くつてゐらつしやいますね。五年前と少しもお變りがないやうに思はれます。お顏やお姿に變りがないやうに、あなたの夢も未だに若うございますね。あなたの御手紙には五年前と同じやうにロオマンチックな匂ひが溢れてゐるのでございます。それも無理のない事と存じます。五年振りで見たあなたのお眼には相變らず異樣な怪しい魅力が籠つてゐるのですから。

子爵夫人――今だから申上げますが五年前に私があなたのご親切を無に致したのは全くその眼が恐ろしかつたからでございます。私に學資を出してやらうとおつしやつて下さる前にも、私が授業料を納めないで無期停學になつた時、あなたは二度も拂つて下すつたさうですね。この事は近頃になつてある人から聞きました。どうせ道樂になすつた事でせうが、あの時分には未だあなたの眼の挑戰に應ずるだけの戰術兵法を心得てゐなかつたのでございます。それでとうとうあなたの眼から

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

逃げ出したのでございます。

然し今はもう大丈夫でございます。あなたの眼の挑戰を恐れて逃げだすやうな恐怖時代は去つて了ひました。今では私の眼の魔力が、あなたの眼の魅力を壓伏するに違ひないと確信して居ります。五年前と少しも變らないあなたが、すつかり變つた五年後の私を捕虜にする事は出事ません。あなたがいくらロオマンスを夢見られても、私はあなたの歩む道に薔薇の花を撒く騎士ではないのでございます。

子爵夫人――以上で私の立場も明白になつた事と存じます。あなたのお手紙は取りもなほさず降服狀だつたのでございます。五年前あなたの眼の挑戰から敗走したものの前にあなたは降を乞はれたのでございます。この言葉の意味があなただけにはよく通じる筈でございます。折角のお尋ねでございますから、あの晩私と一緒に居りましたのは私のいとしい情人だといふ事を申上げます。尙生命迄投げ出すか何うかは疑問ですが私の爲に小指位は切る女が舞臺にもゐたといふ事も付け加へて置きたうございます。先は右迄――早々

奴等の力

大杉榮

なるほど奴等は力を持つてる。
一寸でも刄向へば直ぐ毆りとばされる。
いかにも奴等は強さうだ。
だから皆んな奴等の前にへこたれてる。
だが本當に奴等は強いんだらうか。
そんなに奴等は力があるんだらうか。
これは事實上問題にならん問題のやうだ。
しかし僕等には何うも疑はれてならん。
僕等はだいぶん奴等に當つて見た。
そして其のたんびに僕等は負けた。
だが僕等は只負けて了つたんぢやない。
負けるたんびに僕等の心に勝利が萠してた。
奴等は弱いんだ。奴等は力も何んにもないんだ。
只へこたれてる皆んなで奴等の力を作つてるんだ。
今に僕等が奴等の弱い事を見せてやる。
奴等の力を支へてる皆んなをどけてやる。

人と超人

バアナード・ショウ作
堺利彦譯

第一幕（つゞき）

ラムスデンとオクテビアスが、ミス・ラムスデンを伴うて歸り來る。ミス・ラムスデンは頗るゑらそうな老孃で、質素な鳶色のガオンを着て居る。但し指環、鎖、胸飾などゴテ〳〵附けて其の質素な服裝が主義の爲であつて、貧乏の爲でない事を示して居る。彼女は凛乎として入り來る。二人の男はショゲきつた當惑顏なして其跡について來る。アンは立ち上りて熱心にミス・ラムスデンを出迎へる。タナアは胸像の間の壁の側に退き額の畫を見て居る振をする。ラムスデンは例の通り机の前に行く。オクテビアスはタナアの傍らに附いて居る。

ミス・ラムスデン　（アンを押しのける樣にして、曩のホワイトソイルド夫人の椅子に來り、どつかとそれに腰かける。）私はモウ此の事件からは全然身を引きます。

オクテビアス　（憮然として）ミス・ラムスデン、あなたは私にヴアイオレットを連れて行けと仰るのでせう。そうします。（躊躇しながら戸の方に行きかゝる。）

ラムスデン　いや、それはいかん。

ミス・ラムスデン　なぜいけないのです、レーバック。若し眞に身の罪を悔いて居る女であるならば、私は決して追出しはしません。それはオクテビアスも知つて居ます。けれども、女が過ちをしたのみならず、更に其過ちを續けようと云ふに至つては、私はモウおつきあひは出來ません。

アン　まあ、ミス・ラムスデン、どうしたと云ふのです？ヴアイオレットは何と云ひました？

ラムスデン　そりや全くヴアイオレットは意地を張つて居るよ。どうしても倫敦を去らうと云はない。私には譯が分らない。

ミス・ラムスデン　私には分つてます。あなたの顏に鼻が附いてるほど明かな事です。ツマリ其男、何處の誰だか知らないけれど、それと別れたくないから行かうと云はないのです。

アン　そう、そう、そりやそうなんですよ。オクテビアス、あなたもヴアイオレットと話して？

オクテビアス　ヴアイオレットは何んにも話さないんだもの。或人に相談するまでは何とも出來ないと云つて。そして其の或人と云ふのが彼をだました奴に相違ないんだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

タナア（オクテビアスに向て） それぢや君、其人に相談させたら可いぢや無いか。其人も無論ヴァイオレットを外國に出す事を喜ぶだらう。何も困る事は無いぢや無いか。

ミス●ラムスデン（オクテビアスの返事を仕ようとするのを遮つて） 所がジャックさん、困る事があります。私がヴァイオレットを助けるには、彼人の惡事の共犯人となる事は出來ません。ですから、彼人が再び其男と會はないと誓言するか、それで無くば誰か外の人の世話になるが宜しい。そして何れにしても早いが宜しい。

（女中が戸口に現はれる。アンは急に居ずまひを直して濟ました顔をする。オクテビアスも我知らず其の眞似をする。）

女中 奥樣、お車が參りました。

（譯者註。ラムスデン孃に向つて女中が『奥樣』と呼ぶのは少しおかしいけれども、Maam いふ字の譯し樣が無いので、暫く斯うして置く。）

ミス●ラムスデン 車が？何の車？。

女中 ロビンソンのお孃さんのお車です。

ミス●ラムスデン あゝそうかい！（と我に返り）宜しい。（女中出で去る。）自分で車を呼びにやつたと見える。

タナア 僕は三十分も前から其車を呼びにやりたいと思つて居た。

ミス●ラムスデン 私は彼子が身の程を知つたのが嬉しい。自分で仕出かした事だもの。

ラムスデン 然しスーザン、こんな風で彼子にこゝを出て行かせるのは私は面白くないと思ふ。あんまり酷な事は仕たくない。

オクテビアス いや、其のお言葉は實に有難う御座いますが、然しミス●ラムスデンの仰る事が正當です。ヴァイオレットはこゝに居らるべき身ではありません。

アン テビー、ぢやあなた一緒に行つてあげたらドウ？。

オクテビアス だつて僕とはイヤだと云ふんだもの。

ミス●ラムスデン そりやイヤな筈です、直ぐに其男の處に行かうとするのだから。

タナア こゝで有がたい待遇を受けた自然の結果としてね。

ラムスデン（ひどくタナアの言葉を氣にして） そうれスーザン。あゝいふ事を人に言はれる。そしてそ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れにも幾分の道理がある。お前の主義もさる事だが、少しは彼子の爲に我慢してお吳で無いか。

ミス●ラムスデン　おや〳〵、男の人は皆んな彼子に同情する。本當に呆れたものだ。

タナア　ラムスデン君、僕の方は大分風向が好くなつた譯ですな。

ヴァイオレット戸口に現はれる。少しも後ろめたき樣子のない、落ちついた若き貴婦人で、最も愼ましやかな女性の一人と見受けられる。其の小い頭と細い引締つた口と顎、其のテキパキして上品な口のきゝ方とシャンとした姿恰好、其の持物に無殘な派手好みをして居ること、例へば剝製の鳥を附けた、頗る氣のきいた帽子の如きが、極めて美しいと同時に極めて恐ろしいと云ふ人物を示して居る。彼女はアンの樣な、人を惑はす妖婦ではない。自分の方から求めぬ時でも、或は自分の方で氣の付かぬ時でも、自然に人の渴仰を受ける。又アンには少しフザける氣味があるが、此人には全くそれがない。恐らく憐みの心も全く無い。若し彼女に何か遠慮する事があるとすれば、それは思ひやりからではなくて、智慧と誇りとの爲である。それで若し何か云はねばならぬ事があつて、少し厭々ながら開き直つて物を云はうとする時には、其聲は恰かも、何か不行跡をした女學生の組に對して、女教師が發する樣な聲になる。

ヴァイオレット　私ちよつとミス●ラムスデンに言ひに來ました。いつぞや私に下すつた誕生日のお祝の、あのフイラグリーの腕輪は臺所に置いてありますから、どうぞお取り下さい。（譯者註。フイラグリーとは何の事か分らぬ。）

タナア　おはいりよ、ヴァイオレット。そして善く僕等に話して下さいよ。

ヴァイオレット　有がたう。今朝はモウ親類の內輪話で堪能しました。アンのお母さんもモウ弱つて了つて、今泣きながらお歸りになつた。何にせよ私には、私の味方だと云ふ或人達の値打がよく分りました。左樣なら。

タナア　いけない〳〵、ちよつと待つた。僕は是非あなたに聞いて貰ひたい事がある。（ヴァイオレツトは些かも色を動かさずにタナアの顏を見る。そして手袋をはめるあいだ立止つて居るのだと云ふ振にて、タナアの云ふ事を待つて居る。）僕は此件に就いて全然あなたに贊成する。僕はあなたがそれだけの勇氣を持つて居る事に對して滿腔の敬意を以てあなたを祝する。あなたの方が全然正しい、親戚の人達が皆間違つて居る。

皆々ハツトとする。アンとミス・ラムスデンは立つて二人の方に向ふ。ヴァイオレットは他の人よりも一層驚いて、手袋をはめる事も忘れて、不快と當惑との面持で室の中央にツカ〳〵

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と進み出る。オクテビアスは獨りジツトして顏も上げす、只耻辱の感にくづほれて居る。

アン（タナアに無茶な事を云つて吳れなとなだめる樣に）ジヤック！。

ミス●ラムスデン（憤然として）　私はそれに反對します。

ヴアイオレット（銳くタナアに向ひ）　あなた、誰から聞きました。

タナア　勿論、ラムスデン君とデビーとから聞いた。それに不思議は無いでせう。

ヴアイオレット　だつて彼人達は知らないのです。

タナア　知らないとは何を？

ヴアイオレット　私の正しい事を知らないと云ふのです。

タナア　何アに、それは彼等も心の中では知つて居るんだが、只其の道德とか、禮儀作法とか云ふ樣な、詰らない迷信の爲に、あなたを責めなければならないと思つて居る。然し僕は知つて居る。實は世間の人も、只そう云ひ得ないばかりで、皆知つて居る。あなたが自然の本能に從つたのは正しい事である。活力と勇氣とは婦人の二大特性であつて、母となる事は即ち嚴肅なる婦道の第一步である。あなたが法律上の結婚をして居らぬと云ふ事は、あなた自身の眞價に於いても、將たあなたに對する我々の敬意に於いても、寸毫の影響する所はない。

ヴアイオレット（侮辱を感じて躍起となり）　マア呆れて了ふ！。あなたも矢張り外の人と同じ樣に、私をいたづら女と思つて居る。おまけにあなたは、私が其のあなたの汚らはしい說に同意して居る樣に思つて居る。ミス●ラムスデン、私はあなたの嚴しい言葉を我慢しましたが、それは他日あなたが事情を知つて、必ず悔いる時があると思つたからです。然し今の樣なジヤックの譽め言葉を戴いて、そんな情ない者と一緒にされては、私はモウ迚も其の侮辱に堪へられません。實は私、夫の爲に結婚を秘密にして居たのですが、今は侮辱を免れんが爲に、既婚婦人たるの權利を要求します。

オクテビアス（何とも云はれぬ安心の体にて頭を擧げ）　お前は結婚してるのか！。

ヴアイオレット　そうです。大抵分りそうなも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のぢやありませんか。あなた方は寄つてたかつて、私が此の結婚の指輪を嵌める權利の無い者と極めて了つたのはドウいふ譯です。あなた方は一人だつて其事を私に問ひもしない。私はいつまでも此事は覺えて居ます。

タナア（大いに弱つて）　僕は大失策をした。惡い氣で云つたのでは無いが。僕はあやまります、平にあやまります。

ヴアイオレツト　是からはモ少し氣を付けて物をお言ひなさい。無論、誰もあんな事を眞面目に聞きやしませんが、それにしても餘んまりです。惡い洒落ぢやありませんか。

タナア（此の嵐の前に首を垂れて）　何と云はれても仕方が無い。僕は今後女の味方をするよりか、モ少し善く女を知らなきやならない。我々は皆んなあなたの前に面目を失して了つた。そうでないのはアンばかりだ。アンは初からあなたの肩を持つて居た。どうぞアンに對して我々を許して下さい。

ヴアイオレツト　えゝ、そりやアンは親切でした。尤もアンは知つて居たんですから。

タナア　えゝ！。

ミス●ラムスデン（角立ちて）　それでは其の紳士は一體何と云ふお方です、自分の妻を承認せぬ其のお方は？。

ヴアイオレツト（迅速に）　大きにお世話樣、ミス●ラムスデン。お構ひ下さいますな。私は譯あつて暫くのあいだ私の結婚を秘密にします。

ラムスデン　ヴアイオレツト、誠に申譯がない。お前に對してあんな扱ひをしたかと思ふと、實に私は面目ない。

オクテピアス（氣のきかぬ樣子にて）　御免なさいよヴアイオレツト。私は其外に何んにも云へない。

ミス●ラムスデン（まだ負けるのが厭で）　成程、あなたがソウ云へば此の事件の色合は大分違つて來る。然しそれにしても、矢張り私としては——

ヴアイオレツト（急に其の言葉を遮りて）　あなたとしては私にあやまるべき筈です。あなた自身に對しても、私に對しても、そうなくてはならない筈です。假にあなたが既婚の婦人であるとして御覽なさい。あゝして女中部屋に入れられて、格別の義務も責任もない、若い娘や年寄の婦人達から、いたづら子か何ぞの樣に扱はれるのは、餘り有が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たくはありますまい。

タナア　ねえヴァイオレット、もう我々が負けてるんだもの、其上叩きつけなくても可いだらう。何だか斯う我々は自分で態と馬鹿に成つた樣だけれど、實はあなたが我々を馬鹿にしたんだ。

ヴァイオレット　餘計なお世話ですよ。あなたの知つた事ぢやありません。

タナア　僕の知つた事ぢやない！。でもラムスデン君は、あぶなく僕を其の秘密の紳士にしようとしたんだ。

ラムスデンは躍起となつて色を變じたが、ヴァイオレットの冷たい鋭どい怒の爲に消されて了ふ。

ヴァイオレット　あなたが！。マア何といふ淺ましい、何といふ情ない事だらう。あなた方は一体、私に對して何といふ失敬な蔭口をきいて居たのです。若し私の夫がそんな事を聞いたら、私があなた方の一人に對しても、又と口をきく事をも許しはしますまい。（ラムスデンに向ひ）あなたが居らつしやりながら、せめてそんな事だけは免して下すつても好かつたでせうに。

ラムスデン　何にそれは其の——ツイ其の私の云つた事を妙に勘違ひしたので、——

ミス・ラムスデン　兄さん、あなたがあやまるにや及びませんよ。皆んな自分が招いた事なんですもの。自分の方で人を欺した事をあやまるのが當前です。

ヴァイオレット　ミス・ラムスデン、あなたには少し負けて上げます。もつと世間を知つた人に對してなら、私もモツト注文があるのですが、あなたには私が此の事件でどんな思をするか迚も分りはしません。それは兎にかく、皆さんをこんな妙なハメにして了つたのは、私誠にお氣の毒に存じます。それで私モウ一刻も早くお暇した方が一番宜しいでせう。左樣なら。

ヴァイオレット出で去る。皆々呆れて見やる。

ミス・ラムスデン　私は矢張それに反對します。

ラムスデン（悲しげに）彼子も我々に對してあんまりと云ふものだ。

タナア　ラムスデン君、君も世人と同じく結婚の指輪の前には額かねばならない。我々の恥辱は實に極點に達した。

——（第一幕終）——

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小說三編　　榮

■嘘　（小川未明）

組織的瞞着の事は、卷頭の評論の中で述べた。人間の社會は、力と嘘とによつて、其の所謂安寧と秩序とを無理強ひに保たせてゐるのである。

あらゆる公私の生活は、力と嘘、若しくばその何れかによらなければ、滿足に維持して行く事が出來ない。

「嘘」は、幼時から決して嘘をつかぬと云ふ教育を受けた男の、遂に長じて、此の嘘の世の中に處する事が出來ずして、終世其の親を怨んだと云ふ話を、無茶苦茶に子供を叱る或る兩親に話して聞かしたものである。

子供に有りがちの腦膜炎は、食物を食ひ過ぎる結果だと信じてゐた夫と妻とは、子供が外で遊び疲れて、空腹を感じ切つて、二三杯の飯を夢中に傾けて了つて、そして四杯目の茶碗を出すと、怖しい眼付をして叱る。空腹は卑しい事を敎へる。子供は遂に道に落ちてゐた燒芋の屑を拾つて食つた。そして散々に擲られた。子供は死にさうな聲を出して泣き叫びながらも、眼の中の怖えてゐる光の中には、たしかに隱れてすればよかたといふ後悔の念が閃めいてゐた。親はひどく擲つてやつたので、ながく此の痛さを覺えてゐて、決して二度とあんな卑しい事はすまいと考へた。

「やはり、この社會がさうなのです。道徳といふものがある。法律といふものがある。しかしそれは空腹の人に同情したものは一つもない。人間が空腹を感じてゐない時に勝手に造つた善と惡との標準に過ぎない……しかし此の社會に生存してゐる間は、この道徳に從ひ、この法律に從はなければ、すべて惡人となつて苦しい刑を被なければならない………もしこの人間の無智からして與へられたる刑を免れ、しかも耐え難い空腹を癒すためには、人は隱れて惡いことをするより他に路はないのであります。……彼の子供の親が、無智であつて、無同情であつて、子供に空腹を感じさせ、其の子供のした行爲を惡いといつて叱るのが不正當であるなら、人間に空腹を感じさせ、空腹の者に何等の同情も有しないばかりでなく、其等の人々の行爲を監視する社會はもとより、道德法律はまた不正當なものでなければなりませぬ」

殆ど病的な程に深刻なものだ。（新小說）

■兵舍生活　（白石實三）

「軍隊の方の人は國民教育の場所だと宣言してゐる、」「暗い、退屈な、あの牢獄のやうな場所を」開放せられた後に、M君と云ふ友人に、「あの不思議な、絕對的な、今の世の中には思がけない特殊な大集團……半世紀も昔の封建制度だの、階級制度だの、未だに重な要素をなしてゐるあの團体」の生活を書き送つたものである。

『四五人ぐらゐ怪我人が出るやうでなければ己の練兵のはげしいといふ證據にはならない』と云ふ恐ろしい老士官の下に、『消耗品』と呼ばれて、『死なんがために狩り集められた、』獸のやうな生活が、所々可なりに鋭く描かれてゐる。

實に善い題材だ。けれども作者の書きかたが恐らくはあまりに移氣の多いために、最初讀み出した時の豫期を、終に滿足さす事が出來なかつた。（早稻田文學）

■未來の王國　（淺野友譯）

アナトル・フランスの『白い石の上で』最の一節を譯したものである。『白い石の上

で』は、ゾラの『勞働』と同じく、現在の社會制度の鈌陷と、將來の社會制度の夢想とを描いたものだ。ストリンドベルヒの、女學生も、矢張り此の部類のものだ。そして此の三つとも、ほゞ同樣のコレクチギスチク、ユートピヤを抱いて、且つ將來の男女關係に就いても、ほゞ同一の自由戀愛的結論を下してゐる。

ヒポリテ・デュフレーヌは眼をさますと、突然歐洲聯邦紀元二百二十年六月二十八日の世界に入てゐた。二十世紀の末年に於て、舊時代の文物制度が恐ろしき大洪水のために破壞し盡されて、五十年間の混沌狀態の後に、歐洲國民の聯邦が成立したのである。即ち彼れは寢てゐる間に三世紀半も飛び越して、基督紀元二千二百七年の新世界に入つてゐたのだ。其處には商業もない、裁判所もない、軍隊もない。

しかし此の飜譯は、彼れが新社會に入つたばかりの處で、未定になつてゐる。次號には其の詳細が分るだらう。

何語からの飜譯か知らないが、一寸原文に合せて見ると、恐ろしい誤譯だらけのものだ。みだしの『王國』とは一体何んだい。あの中には王樣なんぞちつとも出て來やしないよ。先づ始めの二三行だけでも、environ が丁度と譯されてゐる。cigarette がシガーと譯されてゐる。ハンカチハーフをハンケチと云ふやうに、シガレツトをシガーと云ふなぞと思つちや、大ぶ事が違て來る。Les arbres rafraichissaient l'air en secouant leurs têtes sombres が、新しい夜の空氣を吸つてゐるとなつてゐる。次ぎに、Je ne suis pas très riche, je ne sais pas dans le monde. Je suis donc parmi les heureux. Mais les heureux ont peu de joie が私は勿論金持ちではない、其かはり私は交際社會にも携はらない、それから世間では不幸なものゝ中に數へられてゐる、實際よろこばしい事とては別にないのだとなつてゐる。其他數へ立てれば、殆んど二三行每に一ケ所位の誤譯がある。だが、善いものを紹介してくれた。

（青　鞜）

意地惡の意味でない誤譯指摘をチトはやらせて見たい。先づ手初めに、誰ぞ私の『人と超人』を鎗玉にあげて下さるまいか。尤も私だけは幾ら意地惡にやられても構ひはしない。

（澁　六）

寄贈雜誌

馬上大學
新公論
内外教育評論
帝國文學
モザイク
新佛教
東京魁新聞
新東京
野の聲
村落通信
鑛業及鑛夫
公友新報
相對
實業之世界
婦人評論
朱欒
奇蹟
新潮
人生と表現
白樺
スバル
ニコ〱
青鞜
獨立評論
ナショナル
新眞婦人

五月號目次

乞食（詩）……………綾　男
トルストイの豫言（飜譯）ナスタシア夫人
何にが新しいんだ（批評）……榮
ファウスト論（評論）…………荒畑寒村
役者の藝術（評論）…………和氣律次郎
A夫人に（感想）……………佐藤綠葉
夜の闘（脚本）………………荒畑寒村
創作試演會（批評）…………寒　村
惑星旅行（小說）……………安城貞雄
人と超人（脚本）……………堺　利彦
愚劇ファウスト（批評）………貞、寒

新刊

律、飄

■青鞜小説集（第一）

創刊號から約一年間の『青鞜』に掲載された小説十八篇が收められてある。

自分は多大の好奇心と期待とを以つて通讀した。さうして失望した。蓋し期待を裏切られたからである。

十八篇の小説にはそれぞれ作者がある。而かも作者の姓名が記してあるが故に、漸くこれとそれとが一人の作品ではなく異つた人の手になつたものであるといふ事が想像される程にtypicalなものゝみである——勿論二三の例外がないでもないが。自分は文章や描寫の方法の相違以外には全く作者の個性といふものを發見する事が出來なかつた。靑鞜小説集に失望したる最大原因はこの點である。

吾々は作者の個性のないtypicalな作品に藝術的價値を認める事は出來ない。自然が類型的であるに反し、藝術は常に特異である。特異は藝術の生命であると考へてゐるからである。

然らばなぜ十八篇の小説が——その二三を除いては——斯く類型的なのであうかと云へは、その最大原因は人間——女としてではない——としての自覺がないからであると思ふ。勿論自覺に到達せんとする努力の閃光がないでもないが、それに到達してゐる者は殆んどない。自覺なき人々の作物に個性のあらう筈はないのである。彼等は内容のない自己の生活のエピソオド若くは貧弱な自己の經驗の一部を、何等の考察。觀照も加へずしてそのまゝ描寫してゐるに過ぎない。即ち一卷を通じて有らゆる意味の反抗的精神なぞは藥にしたくもない。國定敎科書の如く天下泰平である。

今十八篇を分類して見ると、人見直の『敎會と魔術と鳥と』は題はキザだが最も優れたものゝ一つである。野上彌生の『京之助の居睡』神近市の『手紙の一つ』にはサムシングがある。岡田八千代の『かたり』は愚劣千萬なものだ。それに付けても外國語の讀めない人は氣の毒だと思ふ。

大分惡口を云つたやうであるが、畢竟『女の書いたものとしては……』なぞといふ侮辱的な無責任な批評を加へるには餘りに靑鞜社の人々に對して好意を持ち敬意を拂つてゐるからである。（律）。（金八十錢京橋南傳馬町東雲堂）

■ワイルド警句集（生方敏郎譯）

オスカー、ワイルドの警句の如何にも言ひまはしの旨い、もの柔かな、そして垢ぬけのした點は、今更僕が云ふまでもあるまい。『自分で自分を責める中には一種の贅澤がある。私達は自分を罰する時に方つて自分を罰する權利は他人に無い事を感じる。私達の罪を宥すものは僧侶では無して懺悔である』一寸こんな風である。が、此書を讀んで、短い、ユーテラスな警句の中にこもつてる、ワイルドの喜悦や、哀愁や、悲嘆や、嫌惡や、冷嘲をよみ得るならば、其人は必ずや又、ワイルドのアナーキスチック、インヂヴヰヂュアリズムの傾向を見遁さぬだらう。『箇人性とは眞に不思議なものである。人は其爲す事だけを見て、一途に評價する譯には行かない。彼は國法を遵守する。而も彼は取るに足らぬ男であるかも知れぬ。彼は法を破る。而も立派な人物であるかも知れぬ。彼は何等の惡を犯さずして惡人ともなり、彼は社會に對して罪惡を働きつゝ却つて其罪惡の爲に、彼の眞實の完成を實現する場合もある。』（飄生）（金四十錢麹町區飯田町　新潮社）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大久保より

榮

■寒村は日本新聞の社用で、五日に名古屋へ行つた。向うから原稿を送る筈になつてゐたが、餘程忙しいものと見えて、とうとう十日に「原稿は一切お任せする」と云つて來た。「その代り、七月號には「婦人解放の悲劇」を譯す。それから「かづけもの」といふ小説を書く。猶「仲木氏の虚無黨劇」といふ感想を書きたいと思ふ。短いものだが、テロリストの思想感情を叙して、氏のドラマのウイケスト・ポイントを指摘したいと思ふ。」

■猶十一日のはがきに曰く、「今日、少閑を偷んで養老の瀧を見物に往つた。瀧の水を掬んで飲んで見たが、一向酒の味もしなかつた。

ナニ只だの、水ぢやねえかと不孝もの」

蓋し、七八年ばかり前に、僕等の間に「親不孝會」を組織しやうと云ふじやうだん話のあつた時、早速發起人に選ばれたのが、寒村、貞雄、及び僕の三人だつた。僕はもう「親不孝したい時分に親はなし」の身の上になつたが、寒村と貞雄とは相變らず盛んなものだ。

■前號に書いた、士官學校を退校させられた人から、手紙が來た。

「なんだかうれしくてたまりません。やつと自由になつたのですから。八年、長い間でした。矛盾した生活だと思ひながらも、随分苦しんで暮らしてゐたのでした。ほんとうに監獄と同じです。……危險思想！可笑しい程人々は神經を起したのです。私はかう思ふ。一体あたりまへの話なのです。それを自己が僞つてるものですから、「眞の自己」を表現するといふ事を怖れるのです。………今私は自己に生くべき第一歩に入つたのです。」

■前號の雜誌は一つも廣告がなかつたものだから、小劍が大ぶ心配したやうな、はがきをよこした。その中に「お賽錢箱の空だつた夜のさびしさを思ひだす」と云ふやうな事を書いて、その側に「幼時の感想」と註してあつた。小劍は大和の神主の子だ。もう古い事だが、小劍の上京當時、幟の旗地で作つた厚ぼつたい蚊帳をつるので、友人間の話柄になつてゐた程の、貧乏神主の子だ。次手に云ふが、土岐は淺草あたりの坊主の子だ、

■土岐は本月の始めから、讀賣新聞の社用で、滿韓地方へ出掛けた。ほゞ一ヶ月の豫定だそうだ。十三日龍山發のはがきに云ふ。

Keizyô no Sagota-Kôen ni Katô-Kiyomasa ga nusunde yukô toshita Tô ga aru; Ikusa-nin no Hanzai no ato ga 500 nen no noti ni nokotte iru.

そして其の間に、タコの化けたやうな、多分官妓のつもりらしい繪を書いて、

Konishi-Yukinaga wa konna no no Senzo ni horeta no da.

■石川三四郎は本月上旬に、ブルユセルへ着いた。所は

Mr. S. Ishikawa

9 Rue de Naples, Bruxelles.

三月號からの「新佛教」に、その亡命記が連載されてゐる。猶何にやら新聞にも、通信を書いてゐる筈だ。ブルユセルに着く早々、例の總同盟罷工が爆發したので、大に面白がつてゐるらしい。

■本月末の創作試演會に演ぜられる、仲木貞一の「脱獄の朝」を觀るべく、社の同人及友人三十名ばかりの總見をする。

■寒村は二十一日に歸つて來た。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

出版界

■現代作傑叢書

神田佐久間町植竹書院から、現代傑作叢書として、次の諸編が出た。（各金五十錢）

第一編、正宗白鳥『心中未遂』（小説心中未遂、脚本白壁）

第二編、島村抱月『影と影』（脚本平清盛、運命の丘、海濱の一幕、復讐、競爭、小説斷片、柏峠、山戀）

第三編、岩野泡鳴『ぼんち』（小説ぼんち、非常時、巡査日記、脚本閻魔の眼玉）

■ショウ傑作集

早稻田大學出版部から、ショウ傑作集の第一編として、坪内雄藏譯『ウオーレン夫人の職業』が出た。猶第二編『武器と人』、第三編『カンデイダ』等續いて出る筈。各編金六十錢

■蘇生の日 ヘダ・ガブラア 建築師 （イブセン作 千葉掬香譯）

京橋銀座警醒社から、再版が出た。各金四十錢。

■本社取次書籍

本社に於て次の書籍の取次販賣をする。御注文は成るべく振替貯金によられたい。價は定價通り、郵税は當方もち。

▲七死刑囚物語 （アンドレーエフ作 相馬御風譯 金四十五錢）

▲ウオレン夫人の職業 （バアナアド・ショウ作 坪内雄藏譯 金六十錢）

▲女學生 （ストリンドベルヒ作 柴田柴庵譯 金二十錢）

▲大日本閨門史 （白柳秀湖著 金二圓五十錢）

▲ベルグソンの哲學 （錦田義富譯 金七十錢）

▲オスカーワイルド警句集 （生方敏郎譯 金四十錢）

▲白痴 （小川未明作 金一圓十錢）

▲三井と三菱 （實業世界編 金一圓六十錢）

▲運命の人 （バアナアド・ショウ作 楠山正雄譯 金四十錢）

▲人形の家 （イブセン作 島村抱月譯 金九十錢）

■定價一册金十錢、半年分前金五十五錢、一年分前金一圓。但し外國は別に一册金二錢宛の郵税を要す。

■郵券代用は五厘切手に限る。但し一割増の事。

■廣告料特別一頁十五圓、普通十圓。

■本社振替貯金番號一七一六三

大正二年五月二十八日印刷納本
大正二年六月一日發行

府下大久保百人町三五二
近代思想社内
編輯兼發行人 大杉榮

府下大久保百人町三五二
印刷人 荒畑勝三

京橋區銀座四丁目一番地
印刷所 敎文舘印刷所

大賣捌所 東京堂、上田屋、東海堂、北隆館

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

らいてう　平塚明子著

圓窓より

五月一日發賣
四六判
四百頁函入
定價金九十錢
送費八錢

風俗壞亂の故を以て**發賣禁止！**

著者が從來青鞜及各誌に執筆したる、「元始女性は太陽であつた」以下十數篇の評論感想及び數篇の隨筆小品を收む。本書出でゝ始めて著者の赤裸なる風貌に接し、また婦人問題に對する著者の氣鋭なる獅子吼を聞くを得べし。敢て婦人問題の云爲せらるゝ現時の社會に薦む。

東京市日本橋區
檜木町九番地

東雲堂

電話京橋一六三九
振替東京五六一四

文學評論社版

特色ある企圖

ストリンドベルヒ著

近代小說

女學生

柴田柴庵譯

□菊版百三十五頁　裝釘淸洒□

本書の内容

イプセンは、婦人といふ者の價値を、實價以上に認めて居ると云はれ、ストリンドベルヒは、恰度その反對に、これを實價以下に非認して居ると云はれて居ります。然し其何れが婦人に對してより大なる情をもつて居るかといふ事は、一概に斷定が出來ません。此小說は、新しく生れた女が、男子と同等、若しくはそれ以上に、人間としての能力を發揮する爲に、如何に其周圍と戰つたかといふ事を書いたもので、女のあらゆる長所短所が、殊に智識發達力の大なる學生時代の女のそれらが、烙印を押したやうに、明瞭に描かれてあります。婦人に對して稀有の經驗をもつて居る著者は、果して諸君に如何なる秘密を語るでせう。

識賞新聞評

新たに設立された文學評論社版第一篇として現はれたもので、此の叢書の主義は、獨逸のレクラム版の例にならひ、出來得る限り廉價にして、海外の名作は勿論、日本新進創作家の著述をも、月々刊行しやうと云ふのである。譯者は、北歐の鬼才ストリンドベルヒの、戯曲のみ多く紹介されて、小說類は更に文壇に提供されぬのを慨いて、苦心の結果此の長編小說の飜譯を見るに至つたものである。ストリンドベルヒは女性研究者心理解剖者として比ぶ者なきだけに、此の作に現はれ來る若き女性の心理は、今人の若き胸に觸れる事が夥しい。譯筆はよく精細に、深酷に、原作の面影を髣髴せしむ。

□定價金貳拾錢　郵稅金四錢□

東京京橋尾張町二丁目十五番地

警醒社書店

振替東京五五三番　電話新橋一五八七

賣文社

作文、反譯一切の業

務を取扱ふ猶 圖案意匠

部寫字部速記部等の設あり 業務親切

丁寧 迅速 近地は御申越次第社員參上

御用命を伺ふ 營業案内

御入用の方は 往復葉書にて申込あれ

東京市京橋區南佐柄木町二

堺利彦

人若し藥を需めんとせば須く撰擇を要す

清心丹の三大特色は

一、効能の確實

二、品質の善良

三、價格の低廉

主治効能 一心思欝憂、頭痛眩暈、胸痛腹痛、過酒過食、惡心嘔吐、溜飲、宿食、中暑、中寒、下痢、痢病、舟車不快、喀痰咳嗽、咽喉不調、歯痛口臭

定價 壹圓箱入 五拾錢箱入 參拾錢罐入 拾五錢罐入 拾貳錢瓶入 貳拾錢紙包 拾錢紙包 五錢紙包

本舗 東京市日本橋區元大坂町八番地 高木與兵衛

海外文藝叢書

第一篇

アンドレーエフ氏作　相馬御風氏譯

七死刑囚物語

第二篇

ボリス・ザイツェフ氏作　昇曙夢氏譯

心の扉

□□□新刊發賣□□□

新型美裝本

正價各金四拾五錢

郵税各金四錢

第一篇はロシヤ現文壇新象徴主義の第一人者アンドレーエフ氏が七人の死刑囚を拉し來りて深刻なる心理描寫を試みたるもの、第二篇は露國新ロマンチシズム派のザイツェフ氏が氣分藝術の傑作、何れも譯者が得意の筆を揮ふ。一度心の扉を排し神秘の帷を透せば觀照の世界、憧憬の天地、怪獸の呪ひ、驚異の事變、太古の靜寂の空氣を漂はし、惡夢の如き幻想を誘ふ。ア氏が油繪の鮮彩は能く白熱の文字を起し、ザ氏が水彩畫の色調は能く水晶の如き心境を呼ぶ。共に是れ氣分の結晶、官能のシムホニー、其强烈なる印象は全生命の震動を促し、有ゆる神經を燃燒せしむ。此の作の如きは蓋し暗黑なる世界的運命の豫言者としての作者の本領を最も鮮かに發揮したもので、文學を愛好する者の見逃すべからざる新著である。

近刊　第三篇　**月光**

モウパッサン氏作　中村星湖氏譯

東京神田區南神保町　**海外文藝社**　振替口座東京二四四四四番

野上彌生子先生譯

傳說の時代

▲▲最新刊▼▼

菊版美裝 約八百頁 挿入寫眞五十枚希臘古彫刻等皆珍品

定價金二圓 郵税金十二錢

文藝界の大寶庫

神々の英雄の物語

神話傳說の知識なくして完全に理解され得る西洋の文藝は殆ど無いと云つて差し支へありません。その傳說神話を小說よりも面白く讀ませるように書いた此の本は、原著者が希臘羅馬を初め埃及印度北歐に亘つて一千餘種の傑作中より粹を拔いて書き列ねた物語集であります。小說体の神話學と云つても差支へありますまい。人間の想像力の達し得られる限りの高さに達した文藝上の大寶典であります。譯者に取つて此の飜譯は過去一年間の最も喜ばしき勞作の收獲であります。

東京市神田區南神保町十六

小文堂書店

電話本局四二五四
振替東京一九三四四

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文學博士 坪内逍遙譯

ショー傑作集第壹

ウォーレン夫人の職業

洋裝全一册　挿圖數葉入　正價六拾錢　郵税四錢

譯者逍遙博士我が文壇の泰斗たるもの卅年、而も未だ曾て現代社會を寫したるものに筆を染めず、翻譯を試みたることすらあらず、其之あるは實に本譯を以て嚆矢と爲す、劇文學にも劇術にも精通したる博士にして今新に處女譯を試む、何等か特殊の用意あり工夫あり特色あるべきは絮説を要せず、原作は世界的大家ショーが傑作中の傑作、社會問題を提供して内外文壇を騷したる名篇なり

◉ショー傑作集第二武器と人印刷中……

早稻田大學教授 島村抱月譯

イブセン傑作集第壹

人形の家（ノラ）

總布製壹册　挿圖數葉入　正價九拾錢　郵税八錢

◉世界の近代劇中最有名の作也◉婦人問題は今や世界の最大社會問題の一にして此劇は近世婦人問題の焦點を代表せる藝術也◉文藝協會公演に於てノラとマグダとは我新劇壇に空前の感動を與へたり此書其脚本也◉「新しき女」の問題はノラ及マグダの演劇より始まる◉卷首に此作の藝術論及來歷五十頁の文を加ふ……

◉イブセン傑作集第二「海の夫人」印刷中……

【附言】トルストイ作「アンナ、カレニナ」ゴーリキー作「其の三人」フローベル作「ボヴリー夫人」等世界の文壇を騷せる大作は今や譯成りて近き將來に讀者に見えんとす

發行所　東京牛込早稻田　振替東京一一二三番　早稻田大學出版部

（發賣所　東京日本橋本町　振替東京二〇〇番　博文館）

近代思想　第一卷第九號　大正元年十月一日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）大正二年五月三十日印刷納本（大正二年六月一日發行）　六月號　金十錢

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

近代思想　第一卷第九號
大正元年十月一日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
大正二年五月三十日印刷納本（大正二年六月一日發行）
六月號　金十錢

文學博士
坪内逍遙譯

シヨー傑作集第壹
ウォーレン夫人の職業

譯者逍遙博士我が文壇の泰斗たるもの卅年、而も未だ曾て現代社會を寫したるものに筆を染めず、翻譯を試みたることすらあらず、其之あるは實に本譯を以て嚆矢と爲す、劇文學にも劇術にも精通したる博士にして今新に處女譯を試む、何等か特殊の用意あり工夫あり特色あるべきは絮説を要せず、原作は世界的大家シヨーが傑作中の傑作、社會問題を提供して内外文壇を騷したる名篇なり

◉シヨー傑作集第二**武器と人**印刷中……

洋裝全一册　挿圖數葉入
正價六拾錢　郵稅四錢

早稻田大學教授
島村抱月譯

イブセン傑作集第壹
人形の家（ノラ）

◉世界の近代劇中最有名の作也◉婦人問題は今や世界の最大社會問題の一にして此劇は近世婦人問題の焦點を代表せる藝術也◉文藝協會公演に於てノラとマグダとは我新劇壇に空前の感動を與へたり此書其脚本也◉「新しき女」の問題はノラ及マグダの演劇より始まる◉卷首に此作の藝術論及來歷五十頁の文を加ふ

◉**イブセン傑作集**第二「**海の夫人**」印刷中……

【**附言**】トルストイ作「**アンナ、カレーニナ**」ゴーリキー作「**其の三人**」フローベル作「**ボヴリー夫人**」等世界の文壇を騷せる大作は今や譯成りて近き將來に於て讀者に見えんとす

總布製壹册　挿圖數葉入
正價九拾錢　郵稅八錢

發行所　東京牛込早稻田　振替東京一一二三番　早稻田大學出版部
（發賣所　東京日本橋本町　振替東京二〇〇番　博文館）